



令和8年度

横浜市立生麦小学校

学校だより 5月(草月)

横浜市鶴見区生麦4-15-1 学校長 上床 健太
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>

がっこう あいさつあふれる学校に

こうちょう うねとこ けんた
校長 上床 健太

令和8年度がスタートして1か月が経とうとしています。子どもたちは、新たな学校生活にも少しずつ慣れ、毎日を楽しく過ごしている様子がみられるようになりました。休み時間には、多くの子どもたちが校庭で元気に遊ぶ姿が見られます。教室では、真剣に学習している様子が見られます。そのような子どもたちの姿を見て、日々うれしい気持ちになります。4月13日(月)には、校庭に全校児童が集まって、「一年生を迎える会」を開きました。校庭に並んだ2~6年生の児童が1年生を迎え入れ、代表の児童が「生麦小学校はたのしいよ。」「いっしょにがんばろう。」「安心してね。」など歓迎の言葉をかけました。そのあとは、「じゃんけん列車」等のゲームをみんなで楽しみながら、異学年の子どもたち同士が自然な形で触れ合いました。最初は緊張気味だった1年生にも、会の終わりには、たくさんの笑顔が見られました。異学年の交流から子どもたちが学ぶものは、大きいと考えています。今年度も本校の教育活動の特色の一つでもあるたてわり活動を大切にしていきたいです。



朝、校門を立て子どもたちを迎えていると、「おはようございます!」という元気な声が聞こえてきます。少し照れながらも目を見て会釈する子、まだ眠そうに小さな声でつぶやく子。あいさつ一つをとっても、そこにはその子なりの気持ちや成長の様子が表れています。そして、その一言に、こちらの心まで明るくなるのを感じます。

あいさつは、人と人をつなぐ最初の言葉です。特別な用事がなくても、「おはよう」「こんにちは」と声をかけ合うだけで、相手の存在を大切にしている気持ちが自然と伝わります。言われたほうだけでなく、言ったほうの心までも温かくしてくれる力が、あいさつにはあります。とはいえ、「あいさつは大切だから、しっかりしなさい」と言葉で伝えるだけで、自然に身につくものではありません。大人が先に姿で示すこと、そして、できたあいさつを見逃さず認めることが何より大切です。あいさつには、もう一つ大切な役割があります。それは、自分の心を整える力です。朝、誰かに向かって「おはようございます」と言うことで、気持ちが切り替わり、「今日も一日が始まる」という意識が生まれます。緊張しているとき、不安なときでも、あいさつを交わすことで、少し勇気が湧いてくることがあります。あいさつは、相手のためだけでなく、自分自身のための言葉でもあるのです。

これからも本校では、子どもたち一人ひとりが、「あいさつっていいな」「あいさつでつながれるってうれしいな」と実感できる学校をつくっていきたく考えています。そのために、大人も子どもも立場を越えて、互いに気持ちのよいあいさつを交わし続けられるようにしていくことが大切だと思います。また、学校、家庭、地域が一体となって、取り組んでいくことが、自然で素敵なあいさつの定着につながると思います。これからも、より一層のあいさつの推進について、ご理解とご協力力のほどよろしくお願いいたします。

校内に、地域に、やさしい言葉がひびき合うとき、学校はさらに安心して温かな場所になります。すてきなあいさつがあふれる学校を、皆さんと一緒につくっていただけることを、心から願っています。